

研究課題名	薬剤師の入院前面談における緑内障連絡カード利用推進が入院中の緑内障患者の薬物療法に与える影響解析
研究責任者名	広島大学病院薬剤部 教授 松尾 裕彰
研究期間	実施許可日～ 2025年3月31日
対象者	2022年7月から2022年12月の間に、入院前支業務で薬剤師が対応し広島大学病院に入院された緑内障の患者さん。
意義・目的	<p>2019年に抗コリン作用を有する薬剤の添付文書における禁忌が「緑内障」から「閉塞隅角緑内障」へと変更され、開放隅角緑内障患者に対して抗コリン薬が使用できるようになりました。それに伴い、安全で適切な薬物治療を提供するために、薬剤師が患者さんの緑内障の病型を把握することが必要となりました。現在、緑内障の病型と薬剤制限の有無について記載された緑内障連絡カードが眼科医により交付されていますが、すべての患者さんに交付されているわけではありません。当院では入院前面談の際に薬剤師が緑内障連絡カードを確認させていただき、カードを持っていない患者さんのうち入院前に受診予定のある患者さんには緑内障連絡カードを配布しかりつけ眼科で記載していただくようお願いしております。しかし、入院前面談における緑内障病型把握および緑内障連絡カードが入院後の薬剤の適正使用に与える影響は明らかとなっていません。</p> <p>本研究では、薬剤師の入院前面談で緑内障連絡カードの確認ならびに配布・記載依頼を行うことが、入院後の緑内障病型把握および入院中の薬剤適正使用に与える影響を解析することを目的としています。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。使用する内容は既往歴、年齢、性別、持参薬、処方元、処方薬、指示簿、薬剤管理指導記録、診療科、緑内障連絡カードの有無、緑内障連絡カード配布の有無、緑内障病型、入院中の抗コリン薬等の使用状況です。</p> <p>（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p>
共同研究機関	広島大学病院のみで実施します。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院薬剤部 教授 松尾 裕彰
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。</p> <p>* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。</p>

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5579

広島大学病院薬剤部 教授 松尾 裕彰 (研究責任者)

薬剤師 山田 行徳 (担当者)